

- ①不要な灯りを消すとともに、室内の光が外に漏れないようにしましょう。
- ②バリア効果のある殺虫剤や防虫忌避剤(きびざい)を、窓や壁に吹き付けることで虫を寄せ付けない効果があります。
- ③窓ガラス用の防虫フィルムや外灯をLED電球やUVカット電球など虫がよりにくい電球にすると効果があります。

6. 大量発生した時の対策

大量発生した時は、効果的な駆除方法が確立されていないのが現状ですので、皮膚炎対策、拡大防止、来年に向けた発生予防を行うことが重要となり、「マイマイガ」の発生が収まるのを待つしかありません。

<皮膚炎対策>

- 外出する時は、長袖や帽子をかぶるなど、肌の露出を少なくし、「マイマイガ」が衣服に触れた場合は、帰宅後すぐに着替えましょう。肌に触れた場合は、こすらずに、速やかに水で流しましょう。

<拡大防止対策>

- 防犯や道路安全など必要な外灯を除いて、できる限り照明を落としましょう。

<大量発生後>

- 建物壁面などに大量に産卵しますので、来年の発生を可能な限り予防する観点から、建物壁面などについた卵塊を除去しましょう。
- 成虫の生存日数は7日から10日程度です。成虫の死骸はできるだけ早く回収処分しましょう。放置しておくとは別の不快害虫の発生原因になります。

7. 殺虫剤について

幼虫の初期(体長1cm程度まで)は市販の※殺虫剤で駆除できますが、卵、幼虫の後期(体長1cm以上)、成虫は殺虫剤の効果はあまり期待できません。

※スミチオン乳剤、オルトラン乳剤、マラソン乳剤、家庭用殺虫剤(毛虫用スプレー)など



オス



メス



卵塊



底部を切り取ったペットボトルで剥ぎ取る